



令和7年度 青梅市立第二小学校

学校教育説明会

校長 山崎 尚史

学校づくりの合言葉 ～幸せな学校をみんなで作ろう～

幸せ→ウェルビーイング（個人や社会の良い状態）

「幸せな学校をみんなで作ろう」を合言葉に一人一人が主体者としてウェルビーイングを意識した学校づくりを行います。「校訓『独立自尊』」を大切にし、学年づくり、学級づくりを大切にすることと一人一人の力を伸ばすことが相互補完しあうようにします。

「幸せな学校」…「幸せになる力を身に付けられる学校」です。一人一人が毎日を通ずる行動を通じて幸せを感じられる学校となることを目指します。

「みんな」…子供だけではなく、保護者も、地域の皆様も、先生たちもすべて含みます。人任せではなくみんなが関係します。

「つくる」…「幸せ」は他人から与えられるものではなく、一人一人が意識をしてつくりあげるものです。

1 「幸せ」になる力を身に付けるために

(1) 自分らしさを認められること

(2) 自分で考えて、決めて、挑戦できること

(3) 失敗しても大丈夫と思えること 良かったことを心に残せること

(4) ありがとうを言い合えること

応援したり応援されたりできること 人のために行動できること

2 「ほめるをしかける」

子供たちの行動や発言などから良さをたくさん見つけて、たくさんほめます。

ほめられるとうれしいものです。やる気がどんどんわいてきます。このことを積み重ねます。しかし、何でもほめればよいということではありません。目的や目標に沿ってほめることが大切です。また、だめなことはだめだと親身になって「叱ること」や「過ちを注意すること」も次にほめることにつながる大切なことです。

①子供たちの力を肯定的にとらえ、成長を促す観点で、たくさん「ほめる」

②子供たちが自分で考え、活躍できる教育活動を意図的に設定する

③子供たちの経験や視野が広がる学びの機会を設定する

3 7つの視点で幸せな学校をつくります

(1) 学ぶ力が身に付く学校

- ①学ぶ姿勢や気付き、振り返りの姿を価値付け、ほめることで学びへの意欲を高めます。
意欲は学びを支える「見えない学力」です。
※ほめるために気付きを促す声掛けやさしかることも「ほめる」ことにつながります。
- ②ICTを活用して、学びの質を高めます。(一人で学ぶ みんなと学ぶ)
- ③知識・技能(「見える学力」)の定着を図ります。

(2) 安全で安心できる学校

- ①いじめをしない、いじめを不快に感じ、行動できる児童を育てます。
- ②苦手さや障がいがあってもがんばる、仲間が挑戦していることを応援できる児童を育てます。
- ③心配なことがあった時、相談できる児童を育てます。

(3) 社会性を身に付けられる学校

- ①あいさつ へんじ 感謝の言葉があふれるようにします。
- ②仲間と協力し合って行動でき、みんなのために行動できる児童を育てます。
- ③掃除や片付けを価値付けし、自分たちの生活の場を整える力を高めます。

(4) 楽しい行事や視野を広げる経験ができる学校

- ①令和7年度を「ミュージックイヤー」と位置付け、音楽に親しむ1年にします。
- ②子供たちが活躍できる学校行事をつくります。

(5) 学校の取組が分かる学校(教育活動が見える学校)

- ①機会をとらえて、学校での子供たちの姿(社会の中での姿)を伝えます。

(6) 保護者(地域)と一緒に参加・参画できる学校

- ①学校でのお子様の姿を参観する機会を設けます。
- ②保護者(地域)が学校の教育活動への支援や協力できる機会を設けます。

(7) 特別支援教育を大切にする学校

- ①さくら組(情緒固定特別支援学級)では苦手さと向き合いながら、力を伸ばせるよう支援します。
- ②くわのき教室(特別支援教室)やことばときこえの教室(河辺小学校へ通級)では苦手さと向き合いながら、力を伸ばせるよう支援します。
- ③保護者からの相談を大切にして、一緒に考えます。
- ④多様な個性が認め合える社会をつくるための土台が身に付くよう努力をします。